

つくしの家（児童発達支援・放課後等デイサービス）自己評価表

令和6年度

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善したいこと 工夫していること
環境・体制など	1	クラスごとの活動では、活動場所の工夫をしていますか	12			・子ども達が、なるべく集中しやすくなるよう仕切り等を活用している。
	2	職員の配置数は適切だと思いますか	5	6	1	・子どもの人数的には職員の数が適切かと思いますが、午前の活動とかはかなり人数が足りなくて大変だったと思う。
	3	施設内の整備等については、バリアフリー化の配慮がされていますか	12	1		・スロープなどを活用している。
業務の改善	4	子ども達の生活や遊び、療育の場として、園舎内や園庭、教材などの環境、雰囲気は好ましいですか。	8	4		・天候によって外へ出られない時、自由時間の遊び、ブロック、プラレールの他にみんなで出来る遊びを探したい。 ・滑り台が入って、遊ぶ遊具が増えた。
	5	保護者アンケートを職員で確認して、保護者の意向を把握して業務の改善につなげていますか。	13			
	6	第三者による外部評価を行ない、評価結果を業務の改善につなげていますか。	6	3		
	7	職員の研修（園内、外部）は確保されていますか。	7	7		・園内での研修は充実しているが、他施設等、久し振りに見学できたらと思う。 ・園児が休みになる土曜日を活用し研修を受けることが出来ている。 ・活動のヒントになるような研修があれば行ってみたい。 ・配信研修を有効的に利用できている。 ・災害時の避難についてのユーチューブや資料を見ての研修を何回も行った。
適切な支援の提供	8	保護者の願いを聞いたり、子どもの姿を見ながら、個別支援計画を作成していますか。	11			
	9	子どもの成長の段階を、定期的に園で用いる診断表を使って確認していますか。	10	1		
	10	クラスごとの活動や、全体での活動の立案をチームで行なっていますか。	9	3		
	11	活動内容が固定化しないように工夫をしていますか。	8	4		・担当の先生方と相談しながら、児に合った活動内容になるよう工夫している。
	12	子どもの状況に応じて、個別的支援と集団活動を組み合わせて行なっていますか。	12			
	13	その日の活動内容や役割分担について、職員で打ち合わせを行なっていますか。	10	2		
	14	日々の支援の記録や、連絡帳への記入は毎日行なっていますか。	11			

	15	定期的にモニタリングを行ない、個別支援計画の見直しを行なっていますか。	10	1		
関係機関との連携	16	相談支援専門員との打ち合わせを行ない、障害児利用計画と個別支援計画との整合を図っていますか。	11			・担当者会議に出席させていただき、障害児利用計画に添った計画を作成するよう努めている。
	17	医療的ケアが必要な子どもについては、主治医や保護者、消防署等と連絡を常にとっていますか。	9	1		・医ケア担当の職員から報告を聞いている。
	18	保健師や福祉課、保育園や幼稚園、こども園等と連絡連携を取っていますか。	6	2	1	
	19	就学や移行を迎える場合に移行先への引き継ぎや必要な情報を提供していますか。	10	1		
	20	ボランティアや実習生、近隣の小学校や園との交流は計画的に行なわれていますか。	8	2		・小学校との交流はなかった。 ・コロナ前の交流とまではいなくても、少しずつ地域と再びつながっていきたい。
保護者との関係	21	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの状況や課題について話し合っていますか。	12			
	22	保護者からの子育ての悩みや福祉サービス等に対する相談に応じ、必要な場合は園長や相談支援専門員への相談につなげていますか。	12			
	23	保護者学習会を計画的に開催し学習の場や保護者同士の交流・連携の場を持っていますか。	9	3		・保護者同士の交流の場を、もう少し提供できる機会を増やせたらと思う。
	24	保護者からの苦情や要望に対して、迅速かつ適切に対応していますか。	12			
	25	定期的に園のお便りを出したり、行事の内容や流行性の病気、気象状況等、必要に応じてお知らせを出していますか。	13			・インフルエンザなどのお便りを出したり、入口のホワイトボードに書いたり、ラインでお知らせをした。
	26	子どもや、保護者の個人情報には十分に注意していますか。	12	1		・間違っって他児の書類を渡してしまい反省している。氏名の見間違いに十分気をつけたい。
非常時等の対応	27	地震、火災、台風、事故等への対応について、職員や保護者に周知していますか。	9	4		・周知していると思うが、十分なものであるか様々な方面から検討し、より適切なものとなっていくように努めていきたい。
	28	非常災害の発生に備えて定期的に訓練を実施していますか。	12			・毎月1回、避難タワーまでいく練習をしたい。
	29	子どもの服薬や、てんかん発作、緊急時の対応等について、職員間で確認できていますか。	11	2		・緊急時の対応を個別にまとめて作成したり、薬が変更になれば職員に説明して皆が理解してもらえるようにはしている。
	30	虐待の防止するために、職員間で確認し、適切な対応ができていますか。	12	1		
	31	子どもの人権を大切にして、呼び捨てで名前を呼ぶことはありませんか。	13			
	32	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行なうかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し、了承を得た上で行なっていますか。またそれを、個別支援計画に記載していますか。	8			・身体拘束の場面はない為つけなかった。
	33	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示に基づき対応していますか。	8			

	34	事故やけがが発生した場合、または危険な状況（ヒヤリハット）があった場合に、職員間で共有するとともに、必要な改修や改善などをすぐに行なっていますか。	12	1	・ケガが発生した際、職員間の連携で速やかに対応できたことは良かったです。しかし自分の中で、ケガを事前に防止する意識をもっと高めていかなければならないと反省しています。階段やままごとコーナーの配置を変えていただきありがとうございました。
--	----	---	----	---	---

☆ここ数年、つくしの家を利用する子ども達の数が少なくなっています。少子化や保育園やこども園への早い段階での入所、また、市町での1次療育から2次療育へ移行する段階で、療育の必要性があるかどうかの調整会議を経てからの受給者証の発行など、いくつかの段階を経る必要もでてきています。

つくしの家ではこの3月終わりに9人の皆さんとご家族の皆さんがそれぞれの年月をここで過ごし卒園の時を迎えます。この一年を振り返りながら社会福祉法人一羊会つくしの家の職員としてこんな思いで、こんなことを大切にしていきたい…、あなたの思いをお書き下さい。

①この地域の中での、つくしの家（こぐま教室・定期利用）は、どんな役割や、どんな場所だと考えますか？

- ・療育が必要な子の為の場所である事は勿論ですが、お母さん達にとってもホット出来る場所、安心できる場所になったら良いなと思います。（一人じゃない、話を聞いて貰える…と思えるような。）
- ・なくてはならない存在だと思います。共働き、小さな時から保育園に入園などで以前とは環境も違いますが、成長の段階で、必要な場所、必要なサポートは大切な事だと思います。時にニーズにあった環境整備も必要なのかも感じました。
- ・その子に合わせたペースで一つひとつ丁寧な療育をしてくれる場所だと捉えています。やがては皆、大きな社会の中で生活をしていくので、幼少期にこそとても大切な場だと思っています。
- ・子ども達が成長するにあたり、一番大事な根っこの部分を育てている場所。
- ・牧之原の社会資源の1つで、子ども達が安心して、通える場所だと思っています。子どもの育ちを応援する役割を持っていると考えています。
- ・最近、つくしの子どもの数が減っているのだが、親がつくしに通うことに抵抗があるのかなと思う。そこがクリアできればもう少し増えるのかもしれない。今の場所だと地震の時の津波などのおそれがあり心配なので、法人の保育園と合併してそこにつくしがあれば地域の中にもうまく入れて、少しは抵抗なく通えるのでは
- ・子どもやその家族が安心して通いまた、相談できる場であるよう努めていきたい。大切な幼児期を一緒に過ごせることは、つくしの家、職員を信頼してくれる保護者がいるからだと思う。その信頼と期待に少しでもこたえられるようにしなくてはと反省している。
- ・子どもたちの成長、発達を個別にしていねいに支援していく場所。また、大変な子育ての中で社会から両親が隔絶することがないように、仕事や自己実現に向けた努力やサポートする役割も担っていると思う。
- ・子育て等で悩んでいる事を相談できる場所
- ・自立した日常生活、学校生活など次のステップへ安心して進めるように保護者と共に一緒に考え楽しみながら育ち合っていく場所だと思います。
- ・みんなが安心して相談できる場所
- ・こぐま教室は親子関係を作る為にもなくてはならない教室だと思います。一緒に活動する事で保護者がお子さんに対しての受容ができています。
- ・定期利用毎日登園する事によって、保護者とお子さんの成長と一緒に喜び確認できる場所、気持ち良く登園できる場所だと思います。
- ・親子が安心して過ごせる場所

②この一年、子ども達への声かけや関わり、保護者との関係で大切にしてきたこと、来年度大切にしていきたいことは？

- ・相手の立場になって気持ちを考え、声をかけたり関わりをするように意識してきた。来年度も引き続き忘れないようにしていきたい。
- ・子どもへの声かけはもちろんです、保護者への伝え方もとても言葉を選んで伝えていきます。子どもへはわかりやすく言葉で伝える子、理由をちゃんと説明して伝える子、その子にあった声かけをしてきたと思います。
- ・お子さんの名前を先に呼び、分かりやすい声かけをし、一緒に楽しむ関わりをしてきた。保護者とは毎日の連絡帳のやりとりを含め、必ず朝の出勤かえ、帰りの送り出しをする際、その日あった（こんな事できたよ、ここはもう少しのばしてあげたい）などを伝えるようにした。来年度も子ども達、保護者のみなさんと一緒に同じ歩幅で歩んでいきたい
- ・担当した子どもが長く入院していたり、母親不在の日が長く続いたりしていたので、心が安定できるように心掛けていました。言語で表現できないのでなかなかその子の思いを汲み取ることが難しく、こちらの思い込みでの対応も多かったと反省しています。子どもにはそばに寄り添ってプラス言葉をたくさん使ってみました。保護者には心育てに自信がもてるようにたくさん褒めるように心掛けてみました。子どもには安心できる人、保護者には信頼できる人に近づけるよう努力したいです。
- ・子供さんにはできるだけ短く、わかりやすい言葉を使うことを心がけた。保護者には連絡ノートや送迎時、今日のできごとをなるべく伝えるようにしてきた。来年度も保護者の思いを組みとりながら子供達に接していきたい。
- ・楽しく笑顔で過ごせるような関わりを大切にしてきました。来年度も保護者や子どもが「行きたい」と思うような関わりを続けていきたいです。
- ・コミュニケーションが上手くとれない子と関わる人が多いのですが、児への反応をみながらやっていきたい。保護者が何が困っているのか心配なのかを把握してそれに対応していけるようにやっていたが、来年度も続けてやっていきたい。
- ・まずは聞き受けとめることを第一にしてきた。そして、プラスになるような声かけをしようと心がけたが…来年度はもう一歩子どもや保護者に踏み込んで関わっていかれたらと思う。
- ・保護者が大切にしていることは何かを理解し、それをサポートすること。こちらの考えや思いを押しつけていないか、保護者が家庭での育児がしやすくなるにはどうしたらよいかを考えながら関わらせていただいた。
- ・どう伝えたら理解できるかな、行動に移してくれるかな、今のは伝わったかなと考えながら関われるようにしたいと思っています。お母さん達が不安に思うことを一人で抱え込むことがないようにお母さんの気持ちに寄り添っていきなさいと思います。
- ・子ども達に分かりやすい声かけをするように心がけた。保護者の悩みを聞き、自分なりに考えてアドバイスをしたり一緒に考えた。来年度も保護者に寄り添えたらと思っています。
- ・プラフの声かけを心がけた。一人一人の特性をもう少し詳しく理解し、接していきたい。

③あなたが今年度担当してきた活動について、子ども達が楽しい経験をし、積み重ねながら育っていくことを願いどんな思いで取り組んできましたか？

- ・新しい事（物）を取り入れたり、楽しく取り組む中で身に付いていく事が出来るように考えながら内容を計画した
- ・いつも楽しく参加できるように課題を考えたり、声かけをしたりけがのないように取り組んでいる
- ・同じ内容でも中身を少し変えてみたりちょっとずつちょっとこれって難しいかな？でもできそうかな？という内容も取り入れてみた
- ・子どもが自分でやって楽しい、うまいって褒められて楽しい、友達と一緒にやれて楽しい…と感じてもらえるような活動内容と声かけに心掛けてきました。それぞれの子どもによって楽しいの感じ方も違うので、時には強引だったと反省するところもあります。いろいろな感じ方があることを理解して進めていきたいと思っています。
- ・あれもこれもではなく、一つの事から目標を決めそれができたらいっぱいほめていくようにしてきた。
- ・活動の課題については各々が達成出来そうな物を提示したり繰り返し行う事で”できた”の経験が積み重ねられるよう考えて取り組んできました
- ・前年度から続けて担当した活動については前年と同じことの繰り返しになるべくならないように、新しいことをとり入れたり子供の個別性を考えて内容を決めていったつもりだった。
- ・その日の活動内容や子どもたちの興味に合わせたり、今日はこの子にスポットがあたるような教材選びをしたつもり。楽しい時間となるよう取り組んだ。
- ・難しい課題は避け、少しがんばったら、やってみたらできた位の内容にし、喜びの多い内容となるよう心掛けた。
- ・子ども達が笑顔になり、話をよく聞きよく見てくれているな一と感じる時私も楽しくなります。子ども達が夢中になれること、もっと新しいことも取り入れていけるようにがんばりたいと思います。
- ・同年齢の子ども達と同士で接する場面を作って、子ども達で育ち合ってくれた。個別の遊びから誘い合って遊ぶ姿、おしゃべりする姿、友達がお休みすると淋しいと感じる心の育ちが見られ嬉しかったです。活動名は同じでもその子どもが出来る内容を考えて。
- ・親も子も最後は「楽しかった」と思ってもらえるように活動した。そして小さな成長を見逃さないようにし、親と共感するようにした